

# Fashion

人事のファッション機能学

## 服装の準備は安定した成果にもつながる

プレゼンテーションや大事な打ち合わせの場でどのような服装をすればいいのか。いわゆる「勝負服」で目指すべきは、色や形で人の目を引くことではありません。「あなたの話を聞きたい」と思わせる信頼感を引き出すことです。そのためには服装のルールを知り、その場にふさわしい装いをするのが大事ですが、それは即席ではできません。ここぞという場面で服装の力を利用するには、ビジネスの場での基本を押さえたワードローブ（個人の持ち衣装の全体）を構築し、日ごろから準備しておくことが重要です。

ワードローブにそろえたいスーツは少なくとも3種類。チャコールグレーのトーン違いの無地2種類と、ネイビーの無地です。それらに加えて、グレーかネイビーのストライプがあれば、変化を出せます。シャツは白とサックスブルー（淡い青）を合わせて最低5着。ネクタイはシルクで、ネイビーの無地

ADVISER



政近 準子氏

ファッションレスキュー  
代表取締役社長  
パーソナルスタイリスト

Masachika Junko\_アパレルのデザイナーを経て、2001年個人向けスタイリングを行う「ファッションレスキュー」を創業。顧客は政治家、経営者など1万人を超える。おもな著書に「チャンスをつかむ男の服の習慣」(KADOKAWA/中経出版)など。

ファッションには、自己確認や強化の機能、他者に情報を伝える機能などがある。この機能を利用して、人事が直面する課題に活路を見出すことができないか。パーソナルスタイリストの政近準子氏が語る。



服装選びであわてないう、翌日の服装は前の晩に用意してハンガーにかけておく習慣をつけたい。

ネイビーのスーツは若々しい印象。顔立ちや体型によっては経験値が少なく頼りない印象になることもある。

男性のスーツは5年、女性ものは3年で前時代的な印象になりがちだ。定期的にワードローブを見直したい。

と2ミリメートルほどの大きさのドット柄(\*)を各1本。さらに、よくある場面で使えるものを1本用意します。たとえば、役員会議への出席が多い人ならフォーマル度の高い無地のエンジ、採用説明会の司会をよく担当するなら若い人に好まれるレジメンタルというように、相手に合わせて選びます。

個性を発揮して相手に自分を覚えてもらいたいときは、この基本のワードローブにストライプのシャツを加えたり、ポケットチーフを取り入れるなど胸元に少し柄やデザインをプラスするとよいでしょう。また、明確な戦略にもとづいているのであれば、明るい色で目を引くのもいいでしょう。「役員にプロジェクトリーダーとしての責任感と情熱をアピールしたいから、貴禄を出せるチャコールグレーのスーツと清潔感のある白いシャツに、活動的な印象の赤いネクタイを合わせよう」と

考えるなら、明るい色も生きてきます。

一つひとつのアイテムは、できる限り上質なものを選ぶことが大事です。上質とは高価なものとは限りません。同じ価格でも3種類あれば素材や仕立てはどう違い、どこによさがあるのか。「誰に」「どう」自分を見せたいからこの服なのか。場をわきまえた上で、自分らしさを演出できるものを選びましょう。女性の場合は男性のスーツのように基準がないぶん、コミュニケーションをとる相手にどんな印象を与えたいのか、狙いを定めて服を選ぶことがより重要になります。

ビジネスの場にふさわしく、質のよいものをワードローブにそろえておけば、服装で気後れするということがありませんから、仕事でよい結果を出しやすくなります。服装をきちんと準備することは、安定した成果にもつながるのではないのでしょうか。

(\*)ドット柄は小さいほどフォーマルになる